

さいたま市長 6月臨時記者会見

平成20年6月17日（火曜日）

午後1時30分開会

○ 進 行 すみません、お待たせしました。ただいまから臨時記者会見を始めさせていただきます。

それでは、幹事社のテレビ埼玉さん、よろしくお願いいたします。

○テレビ埼玉 幹事社のテレビ埼玉です。よろしくお願いいたします。

さっそくですが、今回の件について市長のほうから発表をお願いいたします。

○ 市 長 それでは、本日は臨時の記者会見をお願いいたしましたところ、報道各社の皆様には大変お忙しい中お集まりをいただきまして、まことにありがとうございます。

このたび大宮駅周辺の新たなまちづくりの基本方針となる大宮駅周辺地域戦略ビジョンの策定についてご報告をさせていただきます。皆様もご承知のように、大宮駅周辺は首都圏でも有数の乗降客数を誇る大宮駅を中心に、県内随一の商業都市として発展を遂げまいりました。大宮駅周辺は、北関東や東北、上信越地方とを結ぶ交通の要衝でもあり、首都圏の環状拠点都市群の一つとして多くのポテンシャルを秘めているものの、一方でまちづくりが思うように進んでおらず、政令市の都心としてはまだまだ不十分であると痛感をいたしております。

こうした状況の中、平成14年度には大宮駅東口都市再生プランを発表し、大宮駅東口のまちづくり方針を打ち出したところですが、このたび大宮駅周辺を政令市さいたま市にふさわしい都心地区として、首都圏や東日本なども視野に入れながらさまざまな魅力を持つ広域交流拠点を形成をすすめるため、大宮駅西口地区も含めて大宮駅周辺地域戦略ビジョンの策定に着手をしたところでございます。このビジョンの策定の着手を契機として、大宮のさらなる可能性を再認識しつつ、地元の皆様との協働により新たな大宮のランドデザインを描いていくこととなります。そのねらいとしては、大宮駅周辺に集積する商業、業務、交通などの都市機能を再構築し、歴史や文化、スポーツなどの地域資源を活用しながら都市ブランドの確立

や国際化、IT化、環境問題への対応などの視点を新たに加えたまちづくりの方針をお示しした上で都市開発の具現化を推進してまいりたいと考えておるところです。

そこで、まず今申し上げましたこの都市再生プラン、これにつきましては平成14年に大宮駅の東口の都市再生プランをつくっております。これは、大宮駅東口の課題に対応して、にぎわいのある商都大宮の再生や広域交通網を生かした広域交通拠点の形成等のまちづくりの方向性を示した計画でございます。しかし、対象区域が東口地区だけでありまして、西口や鉄道施設も含めた大宮駅周辺地区全体のまちづくりに対応できていないため、都市の均衡ある発展の性格が薄いプランとなっております。今回策定いたします大宮駅周辺地域戦略ビジョンは、大宮駅東口都市再生プランを内包して、さらに西口まで広げるという性質のものでございます。

ご承知のように、西口の土地区画整理が大分進んでまいりました。一時期ですね、そごうでありますとかそういった中心の商業施設の完成ということによって、ほぼ西口は完成したんじゃないかというふうな感覚でもいたわけなんですけれども、これだけ区画整理が進んでまいりまして、また新たなるまちづくりという面からは、この東口、西口一体となった新しいプランが必要という観点に立ちまして、このような新しいプランをつくらせていただいたということでございます。

このプランの策定に当たりましては、お手元の資料に掲載させていただきましたように、各分野の学識経験者を中心とした策定委員会、これを設置をしたところでございます。委員長をお願いしております黒川洗筑波大名誉教授は、都市再生の先人となっております。大手町、丸の内、有楽町地区再開発計画や常磐新線沿線のまちづくり等多くの事例に参画をされておられる都市計画や交通計画の専門家でございます。また、副委員長をお願いしております都市計画設計研究所の南條道昌先生は、汐留地区総合整備諸計画や筑波研究学園都市の中心市街地整備計画などでご活躍をされた方でもあります。他の学識の先生方も、それぞれの専門分野で全国的にご活躍をされている方々を委員にお迎えをすることができまして、このたび第1回の大宮駅周辺地域戦略ビジョン策定委員会、これを6月の26日に開催をする運びということになりました。この策定委員会は、原則公開で行

うということにいたしております。そして、この策定委員会による検討にあわせ、市民に対する情報提供につきましては市報やホームページへの検討過程等の掲載、それから出前説明会の実施などを行いながら地元の皆様の意見を反映をするとともに、具体的なテーマについては分科会を設置することも考えておりました、まさに協働、コラボレーションによるまちづくりに取り組んでまいります。

最後になりますが、今回の大宮駅周辺地域戦略ビジョンにつきましては、全世界が取り組んでいかなければならない環境問題についても十分にご議論いただき、他都市の先導的な事例となるよう期待をするとともに、大宮駅周辺を政令市にふさわしい都心地区に再構築することを目指して、地域の方々との協働により着実にまちづくりを推進できるようにしていきたいと考えておりますので、ご支援のほうをよろしくお願いを申し上げます。

以上でございますが、かいつまんで申し上げますと、1つにはやはりこの西口地区も入れて大宮駅を中心とした広い地域ですね、このオレンジの線で囲ってあるような広い地域、今までは東口都市にぎわいプランですから、この中山道と、それから参道、これが中山道ですね、これが参道、これは一の鳥居になりますけれども、この扇型の地域だけでした。これをさらに広げて、西口は今だいぶ区画整理が進んでおりますけれども、そういった地域を含めて一体的に整備をしようということで、ゾーンが大分違って来たということが1つ言えるのではないのでしょうか。これが1つ大きなポイント。

それから、学識経験者ということで、全国的に活躍をしていただいております黒川先生、また南條先生を初めですね、全国レベルの先生方に参加をしていただけることになったと。それから、過去においてなかなか進まなかった一つの理由がやはり地元との協働、コラボレーションがなかなかうまくいっていなかった、こういうことがありまして、この策定委員会は今申し上げましたように原則公開ということにしておりますし、地元への情報提供にはおさおさ怠りないようにしていくとともにですね、具体的なテーマについては分科会等を設置して地元の人にも入ってもらって、そして討議をしていこうと、こういうことで開かれた委員会にしてまいりたいというふうに思っているところであります。いずれにいたしましても、こ

の二十数年ですね、大宮駅、特に東口がなかなか再開発が進まなかったということの中での新たな大きなこのプランの策定でございますので、ひとつまた報道関係におかれましてもご支援方賜ればというふうに思っております。

以上です。

○テレビ埼玉

ありがとうございました。

それでは、幹事社のほうから幾つか質問させていただきます。

○市 長

はい、お願いします。

○テレビ埼玉

この駅周辺地域戦略ビジョンなんですけれども、これは最終的な形としてはやはり市長への提言という形になるのでしょうか。

○市 長

いや、提言という形にはなりません。市長への提言といいますか、もちろんこれには予算が伴う話でありますから、いわゆるですね、このビジョン策定委員会でこの地域戦略ビジョン、この案を策定をしていただく。きょうの名簿には出ておりませんが、オブザーバーとして埼玉県、また鉄道事業者等にもオブザーバーとして参加をしていただくと。そして、この策定委員会で地域ビジョンの案の策定ができました段階で、今度は大宮駅周辺地域戦略検討会議、このようなものを設けてですね、これはメンバーとしては行政、それから鉄道事業者、そういったもので課題の整理や施策の抽出を行ってまいりたいというふうに思っております。それから、大宮駅周辺整備庁内検討会議や、また大宮周辺整備庁内検討幹事会、これで具体的な細かいものを進めていくと。同時に、地元対応としては地元との意見交換会、これを合同または個別でですね、順次開催をしていくということで、この市民と行政のコラボレーション、特にこういった再開発は信頼関係、これが欠かせないものでありますから、その信頼関係をまたもう一回ですね、構築をしてまいりたいというふうに思っております。

以上です。

○テレビ埼玉

じゃ、この戦略ビジョンを中心に、戦略ビジョンを策定されて、それを中心にまちづくりや開発をしていくというふうに考えてよろしいですか。

○市 長

そうです、おっしゃるとおりです。

ビジョンができて、それをどうしたら具体化するかということは今申し上げたようなそれぞれの検討会議で検討してもらって、今度は具体策にな

ると、これは予算が伴いますから、そこで市議会のほうにも十分にご検討いただくと、こういう段階になろうかと思っています。

○テレビ埼玉 わかりました。

先ほどちょっと市長のお話にもありましたけれども、商都大宮の再構築に向けた議論が本格的に始まろうとしているんですけれども、これについて市長の期待を改めて一言お願いできますでしょうか。

○市長 そうですね。先ほど来申し上げておりますように、なかなかですね、1963年に旧の大宮市で大宮駅西口、同第2地区の区画整理を決定をしました。その後1982年に東北、上越新幹線が開通したというふうな歴史的な経過がある中で、東口が2.4ヘクタールに限ってですね、この再開発計画があったと。ところが、この2.4ヘクタールという地域ですと、非常にのりしろがないもんですから、その中でどう動かしてもなかなかうまくいかないということでこれは進展しませんでした。しかも、その2.4ヘクタールの再開発計画というのは地元には知らないで、そのころの計画はよくわかりませんが、かなりの反発が出たという話なので、余り知らないで発表しちゃったんじゃないかなというふうに今私も考えておりますけれども、そういった中でお互いといいますか、住民のですね、行政に対する不信感、こんなようなものも出てきてしまったのではないのでしょうか。なかなかうまくいきませんでした。

そこで、2002年に、これはさいたま市になってまだ政令市になる前の話でありますけれども、先ほど申し上げました東口都市再生プラン、これを策定をいたしまして、その策定と同時並行的にこの東口の再開発事業、いわゆる2.4ヘクタールに限った再開発事業を廃止をしたと。廃止ができたのは2004年ということであります。ですから、今東口には東口都市再生プランという大ざっぱなプランがかかっていますけれども、地域的な特定ですとかそういったものはまだされていないというのが現状でありまして、この地域にはご承知のように、特に東口には大宮区役所でありまして、市民会館おみやでありますとか、そういう公共施設がいっぱいありますのでね、そういったものも築後だいぶ経っておりまして、耐震化の問題もこれありということで、そういったものを含めてまた考えていかなきゃいけない。そういう非常にですね、この旧の大宮市にとってみればま

さに心臓の部分なんですね。これを何とか動かしていかなければ、さいたま市全体としての発展もなかなか難しいだろう、そんな思いからですね、このたびこの戦略ビジョンの策定委員会、これを立ち上げるということにさせていただいたものであります。

以上です。

○テレビ埼玉

ありがとうございます。

最後に1点だけ、ちょっと細かいことなんですけれども、東口が2.4ヘクタールということなんですけど、これ全体としてのその地区の大きさというのはい。

○市長

じゃ、担当のほうから。

○事務局

今市長がお示ししました部分につきましては、約190ヘクタールでございます。

○テレビ埼玉

ありがとうございます。

幹事社から質問以上です。各社ほかに質問ありましたらお願いします。

○市長

はい、どうぞ。

○産経新聞

今ですね、この策定に着手するという、今このタイミングで決まったことについてはきっかけといたしますか。

○市長

そうですね、基本的に言うとな、ずっとやっぱり二十数年かかった浦和駅の東口、これらもおかげさまでパルコ、コムナーレということで完成をいたしました。同時に高砂仲町線のほうも完成をしたと。残念ながらですね、浦和駅の高架化、これがちょっと遅れておりますけれども、ある意味ではめどといたしますかですね、あとはプログラミングに沿ってやっていけばということで、浦和駅周辺については大体めどがついてきたと。このタイミングで今度は最もですね、さいたま市として特にこれから商業という面では発展させていかなければならない大宮、これを取り上げるということとはごくですね、ある意味では自然の流れとしてよろしいんではないかなというふうに思っています。

○産経新聞

これまでの状態より好転する材料があったということでしょうか。

○市長

そうですね。1つはですね、やはり今勉強会というのがかなりの数ありましてですね、それぞれが横の連絡が余りとれていない部分もあります。そういった中で、国家的権威というとな話になりますけれども、実績の

ある黒川先生でありますとかですね、南條先生、こういった方に入ってもらうことによってですね、ある意味では国からの支援も期待ができるだろうという思いもございます。まだこれはこれからの話ですけどね。そういった意味で、今までのように地域の中だけでやっていたものから全日本的なプロジェクトに広がっていけばいいのかな、それによってまた住民やですね、地権者の方々も乗りやすいといいますかね、そういった環境ができればいいのかな、そんな思いです。

○テレビ埼玉　　今市長から全日本的なプロジェクトという言葉がありますし、よく大宮駅って北関東の玄関口とかと言われるんですけども、市長にとって大宮駅周辺というのはどういう姿であってほしい、あるいはあるべきだというふうにお考えですか。

○市　　長　　そうですね。あるべき姿というのはですね、まだこれからビジョンが策定される話ですから、あれですけども、子供のころはね、私ども子供のころは大宮駅を見ますとね、西口というのはもうスラム街ですよ。本当にね、スラム街。東口が商店がたくさんあってね、氷川様に行く参道がね、非常ににぎやかだった、そんなのを覚えているんですね。だから、今みたいな金太郎あめみたいな切り口じゃないね、何か西口は先ほど申し上げたようにそごうでありますとかその他民間ビルが大分できておりますので、それを核として区画整理をさらに進めていくと。それから、東口については商都よみがえれということの中でですね、商業ビルができるのか何ができるのか、まだこれはわかりませんが、いろんなビジョンをお示しをいただく中でこの発展が望まれる、そういったものをぜひつくってきたい。これからの時代ですから、ある意味では今までみたいにね、駅ができればぱっと人が集まってまちができる時代じゃありません。もう人口減少の時代ですから、そういったことももちろん加味していただいてビジョンをつくっていただくと、こういうことになるかなというふうに思っています。

○読売新聞　　今回そのポイントが東口だけではなくて西口まで含めてということですが、東口の開発というのは地権者との関係もあって非常に難しくなっているということを聞きますが、東口だけでも難しいのに西口に広げればできそうだというところのそのお考え。

- 市長 いや、できそうじゃなくて、駅そのものがね、ある意味でJR東日本にしてみると、JR東日本の管内でもベストスリーに入るような大きな駅ですよね。その駅を中心として東と西がまるっきり別々な計画というのもこれはいかなものかということがありますし、だから簡単にできますよということじゃなくて、均衡ある発展をさせていくには一緒にやる必要があるのかなと。
- この辺ですね、行ってごらんになるとわかるんですけども、かなり区画整理が進んできてね、広い空き地が出現をしています、現実ですね。そういうタイミングですから、まさにこの辺も入れてですね、一緒にやっていくということが自然なんじゃないかなというふうに思っていますがね。本当にね、行ってみると随分ね、建物が除去されて広い空間がもうでき上がりがつつありますから。
- 記者 すみません、もう一つお願いします。
- 何となく漠然としたイメージで結構なんですけど、再構築というのはどれくらいの未来に完了するというようなイメージを持っていらっしゃるんですか。
- 市長 そうですね。できるだけ早くやりたいんですけど、担当としてはどれくらいの感覚でいるのかね。
- 事務局 よろしいですか。
- まちづくりというのは、もう既にご案内のように一朝一夕にいかない部分でございます。ですから、市長が言われたようにできるだけ早くですね、私どもも担当部としても一生懸命頑張ると。そのためのビジョンを早く私どもとしては構築していきたいというふうに思っています。
- 市長 なかなかね、何年、何年というわけにいかないんで、申しわけないんですけど、例えば過去の事例で申し上げるとね、浦和駅の東口、これは第1種市街地再開発からこっちで第2種にしたんですよ。第1種というのは、ご承知のように区画整理をやって、その中から歩合で出して云々というやり方。ところが、それだとなかなかね、進まなかったと。第2種というのはどういうやり方かという、買収方式ですよ。買収方式に変えて非常にスピードがついた。そこで、特定建築者制度を入れてですね、いろんな借家権だの、また地上権だのそういったいろんな権利を証券化したと。証券化

をしたことによって、権利も確保されるということで加速度がついたわけですね。だから、これからこれを東口、西口一緒にしてやるにしても、何をやるかと同時にどういう方法でやるかということが非常に大事だろうと思っているんですね。だから、浦和駅の東口がおかげさまで完成しましたけどね、あれもそうやって第1種市街地から第2種に変えたり特定建築者制度を入れて証券化をしなかったらまだやっていると思いますよ。これはなかなかね、二十数年かかってやっとけりつきましたけどね。だから、記者の皆さんはね、何年何月までに完成と書きたいんだろうけれども、まだ緒につくばっかりなんでね、なかなかそこまでは申し上げられないというのが現実です。

- 毎日新聞 それとちょっと絡むんですけども、今回大宮駅周辺地域戦略ビジョンの案を策定するのが今年度、来年度。
- 市 長 そうですね。
- 毎日新聞 来年度いっぱいまでにはもう策定してもらおうということ。
- 市 長 そうですね。だから、基本構想、戦略ビジョンをつくってもらおうということですね。
- 毎日新聞 その後戦略検討会議を設けて。
- 市 長 もちろん戦略ビジョンを出していただきながら次々肉づけはしていきますけれども、戦略ビジョンとしての終了は2年を考えているということです。
- 毎日新聞 その後の戦略検討会議とか、ある程度行政としてのこういうビジョンでいきましょうという案ができるのはどれぐらいというのは。
- 市 長 じゃ、それは担当のほうから。
- 事務局 まさしく今市長が申し上げたとおりでございますけれども、私ども戦略ビジョンをつくるに当たってはやはり着実にですね、事業が展開できるように国等のご助言もいただきながら検討会議をつくるわけですので、その部分については肉づけの部分と検証の部分がございましてけれども、それについてはできるだけ並行的にですね、ビジョンをにらみながら、ビジョンを受けて並行的に肉づけなり検討をしていきたいというふうに考えております。ですから、できるだけフィードバックというか、しないようにですね、後戻りということにしないような体制で取り組んでいきたいというふ

うに考えております。

- 市長 さっき申し上げたように、その肉づけの段階でね、地元の人たちの意見も聞きましょうと、そこがね、大事なんです。そうしないとね、聞かないでやっちゃうと後でまた後戻りしちゃうの。
- 毎日新聞 それは、だからその地元とかに入れてどの程度かかるかというのがちょっとはつきりしないということではよろしいですか。
- 市長 なかなかこれは難しいと思います。やっぱりね、中にはね、おへそが横についている人もいるからね、そうするとおれの言うことは通んなきゃ嫌だとかね、なかなかね、難しいところもあるんですよ、人間ですからね。それを乗り越えていかなきゃいけないんで、辛抱強くですね、やっていきたいなというふうに思っております。
- 埼玉新聞 戦略検討会議は、そのビジョンができた後につくるということですか、並行して。
- 市長 いや、同時並行的につくります。大体並行的につくっていくな。
- 事務局 はい、そうです。
- 毎日新聞 そうしたら、さっき市長のおっしゃられたのは、来年度末までにその戦略ビジョンの案を策定して、その後戦略検討会議を設けると。
- 市長 じゃない。
- 毎日新聞 同時に。
- 市長 同時並行的にやっていきますよと。ただ、そういった意味ではほかの検討会議等はビジョンの肉づけ、それから裏づけ、それから国との連携、県との連携、そういうのがどんどん入ってきますから、それを進めていくと。同時にやっていくんだけど、いつまで、いつまでビジョンをやるわけにいきませんから、ビジョンそのものは2年ぐらいでひとつ収束をさせようじゃないかと。そこには地元の人たちのご意見をいっぱい入れてですね、後から後戻りがすることがないような、そういったしっかりしたビジョンを構築をしていきたいと、そういうことです。
- 毎日新聞 あと、今のところで結構なんです、戦略検討会議に参加される方という方というのはどういう方。
- 市長 今申し上げました、名簿。
- 毎日新聞 いや、これは策定委員会の名簿ですよ。

- 市長 策定委員会ね。
- 毎日新聞 検討会議のほうは。
- 市長 検討会議はね、はい、いいよ、じゃそっちで。
- 事務局 それにあわせてですね、国のほうと今調整をしまして、国、県、鉄道事業者、JR東日本と東武鉄道、あとは私どもの市の職員になっていきます。
- 毎日新聞 地元の方は入られない。
- 市長 地元へは、だから意見交換会をしょっちゅうやってですね、キャッチボールをしていくということですね。
- 事務局 あと、あわせてですね、先ほど市長のほうから分科会という話も出たと思いますけれども、そこの中においては必要に応じて地元の方を入れ込むことも考えております。
- 市長 今申し上げたのは、今市が考えていることでありましてですね、戦略ビジョン策定委員会でそういうスキームでいいですねということをご了解いただかないとね、これ現実に進められないということになりますけれども、まあご了解をいただけるだろうというふうに思っておりますけれども、今のスキームというのは市が考えているスキームだと。これをビジョン策定委員会でご承認をいただいたらすぐさま実行に移すと、今その段階だというふうに理解していただけるとありがたいなと思っておりますけども。
- 東京新聞 結局ですね、これは東口に関してのこれまでの総括ですね、これが20年来、提示したときに住民の反発を食らって、結局狭いというのものもあるものだから、ここに来てさらに広げて再び新たな再開発をという。
- 市長 あなたは最近来たから、知らないと思うんだけどね、東口再開発というのはこの一の鳥居のところからですね、60ヘクタールの、約ね、再開発計画だったわけ。2.4ヘクタールというのはね、この辺だけなんですよ、この辺だけの2.4ヘクタール。いわゆる銀座通り商店街とかあの辺のところですね。これじゃなかなか幾ら寄せていってもね、うまくいかないというんで、この2.4ヘクタールはもうこの東口のリニューアルプランと一緒に、さっき申し上げたんだけど、2004年に廃止しちゃっているんです。だから、今ここにはそういうリーディングの東口再開発プランはありますけれども、地区を限った区画整理事業だとか再開発事業だとか、そ

ういう事業としては今かかっていないということです。

○テレビ埼玉

ちょっと今のお話とも絡む話なんですけど、結構長い期間何かいろいろ紆余曲折があったと思うんですけど、市長でも結構ですし、所管の方でも結構なんですけど、ちょっと簡単にですね、大宮駅周辺の歩みというか、何年ごろこういうことがあって、こういうことがあってというのを教えていただいでよろしいですかね。

○市長

そっち年表わかるかな。

○事務局

よろしいですか。ちょっと市長の先ほどの会見と重複いたしますけれども、ちょっと時系列的に、じゃ私のほうから報告させていただきます。

先ほど市長のほうからも話ございましたけれども、1983年、昭和58年でございますけれども、大宮駅東口第1種市街地再開発事業、2.4ヘクタールの都市計画決定をしたところでございます。先ほど来ありますけれども、地元とのボタンのかけ違えという部分もございまして、なかなかまいように進まなくてですね、平成12年の10月に大宮市公共事業評価監視委員会の中で公共事業の再評価を実施しました。その中で、平成14年度末と期限を設けて事業の休止を決定したところでございます。そういう中で、先ほど市長が申し上げましたとおり、平成14年の12月に監視委員会等で中止を決めたけれども、行政としてやるべきことがあるでしょうというようなことで、まちづくりの考え方、方向性、または行政と市民とのコラボレーションのあり方等をお示ししたのが大宮駅東口都市再生プラン、それを14年12月に公表したところでございます。その後必要な事業については幾つか実施しているところでございます。例示いたしますと、氷川参道の歩線道の一方通行化等、あとは第2タクシープールの社会実験、またはタクシープールの開設、また今現在行っておりますけれども、現況の整備をしているところでございます。いずれにしても、先ほど来市長が申し上げているように、今までは東口の片肺のプランでございましたけれども、大宮駅を中心とした190ヘクタール、トータル的なプランをこれからつくっていきたいというふうに考えているところでございます。

以上でございます。

○テレビ埼玉

ありがとうございます。

- 埼玉新聞 ビジョンという言葉がちょっとあいまいなんですけど、例えば2年後には具体的な完成イメージ図みたいなものまで出してくるようなことになるのでしょうか。
- 市 長 そうですね。ビジョンというのはビジョンですから、こうあるべき姿ですから、だからそこにおいては……
- 埼玉新聞 文言で言うのは簡単、例えば氷川参道、中山道を生かした整備とか、東口再生プランにもそういう表現があると思うんですけど、ああいうふうなあいまいな表現で終わるのか、それとも完成イメージ図みたいな。
- 市 長 ビジョンはあいまいだと思いますよ。
- 埼玉新聞 あいまいな。
- 市 長 うん。それに肉づけするのは、先ほど言っているような検討委員会ですから。
- 埼玉新聞 そちらのほうで決めると。
- 市 長 はいはい。
- 埼玉新聞 でも、同時並行でやっていくので。
- 市 長 同時並行でやっていきますから。どこまでできるかと今断言できないけれどもね、なるべく早く市民の皆さんに提示をして、そしてまたこれじゃ嫌だよとかこれをやったほうがいいよとかいろんなご提案をいただいてね、本当の意味での肉づけをしていけたらなというふうに思っているんです。
- 毎日新聞 すみません、策定委員会はまだ設置されたということ。
- 市 長 しておりません。先ほど申し上げましたように、ビジョン策定委員会で私どもの言ったスキームが承認をされたらつくともう何度も申し上げています。今この、もう一回だけ言いますね。
この検討会議や何かをつくるということは、我々が考えているスキームだということをさっきから申し上げている。
- 毎日新聞 すみません、検討委員会ではなくて策定委員会、この黒川先生とかが参加されている策定委員会自体はもう既に設置されて始動をしたということ。
- 市 長 26日に、だから初めての委員会をやると最初に申し上げています。
- テレビ埼玉 ほかいかがでしょうか。
- 埼玉新聞 もう一点いいですか。最初に聞くべきなんですけど、現状の大宮駅についての問題点というか。

- 市 長 駅そのもの。
- 埼玉新聞 駅と駅周辺だと思うんですが、交通とか商業とかいろんな面あると思うんですが。
- 市 長 ですね。
- 埼玉新聞 現状の問題点はどのように今。
- 市 長 いろいろ細かい点はいっぱいありますね、それはね。ですから、今タクシープールをつくってみたり、それから東口の駅前広場の整備をしてみたり、それから西口にしてもですね、あそこのペデストリアンデッキの下のタクシープールが果たしていいかどうかとか、いろんな検証しなきゃいけないことは次々出てくると思うんですね。ただ、大きく言って東口が特にそういった計画等もあった中でみんな低い建物で、しかもあそこの漫画ビルってわかりますよね。東口の駅前通りから中山道へ抜ける角の漫画とでっかく書いてあるビルね。
- 埼玉新聞 ネットカフェですね。
- 市 長 そうそうそう。だから、そういった意味で建物そのものの老朽化、これもあってね、今始めなきゃこれはとても間に合わんという考え方ですね。ですから、細かいことを一つ一つ言えばこれは切りがない話になりますけれども、今やはり行政としてね、最後のチャンスだと僕は思っています。ここを逃がしたらもうだんだん、だんだんですね、行政の力というものもね、人口が減少する中では税収も当然減っていきますから、衰えていくんだらうと。であれば、これが最後のチャンスだなというふうに私はとらえておましてね、これは何としても成功させなきゃいかんと。死力を振り絞ってやるということなんでしょうな。
- 日本経済新聞 すみません、いいですか。
- 2点確認で教えてほしいんですけども、26日に第1回策定委員会の開催があると思うんですけども、2年間で全部で何回ぐらい開く。
- 市 長 それはわかんないな。
- それは、委員会の進行次第だから、ちょっとわかりません。やりとりもあると思うんですよね。例えばビジョンの策定、あるビジョンを出してきたと。それを先ほどから言っているような一つのもので、受け皿としての検討会議からのアンサーがないと次に進まないような、そういう投げかけ

もあるだろうと思うし、そのやりとりがどの程度の期間になるかとか、それはビジョンの中身によっても違うし、今簡単に何回とか、そういうのはなかなか難しいんです。

○日本経済新聞 わかりました。

あともう一点、「年明けを目途に、中間発表のシンポジウム等を開催して公表していく予定です」というふうに書かれているんですけども、年明けというのは1月をめどにというふうなことになりますか。

○市長 じゃ、またそっちで。

○事務局 基本的にはですね、やはり市民の意向をどう私どもとしては組み入れるかというのが基本でございまして、その一つの手段としてですね、いろいろ先ほど市長も言いましたように情報媒体を使って市民の意向を吸い上げるわけですけども、シンポジウム等においてもですね、私どもとしては中間の中でビジョンの中間報告をしつつ、そのまたそれに対する意見を吸い上げて反映していきたいというようなねらいを持って、2月ぐらいを目標にですね、頑張っていきたいというふうに思っております。

○日本経済新聞 それで、中間発表の段階では、例えばどんなものが出てくると想定すればよろしいのでしょうか。つまり最終的に出てくるものの策定ビジョンというのはあいまいなものだというふうなお話があったと思うんですけども、中間でどういうものが出てくると考えたらいいかなど。

○事務局 先ほど来まだ緒についたばかりでございまして、6月26日の委員会でどういう議論の展開になっていくかというのもまだ見定めないといけない部分もございまして。ただ、私どもとしては基本的、当面大きな方針みたいなのがですね、出せばいいなと期待をしておりますけれども、これから策定委員会の検討経緯を踏まえながら、それらの出し方については今後検討していきたいというふうに思っております。

○市長 いろいろお聞きになりたいんですけど、今ここで結論めいたことはなかなか言えないと。まだ現実にかかれていない段階で、憶測日記にすぎなくなっちゃうんで、なかなか難しいですよということもちょっと申し上げておきたいなというふうに思っています。

○テレビ埼玉 ほかいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

どうもありがとうございました。

- 市 長 はい、ありがとうございました。
- 進 行 以上をもちまして臨時記者会見を終わります。ありがとうございました。

午後2時07分閉会